

名前：

現代社会はじょうほう化社会と呼ばれるほどインターネットを通じてじょうほうの公有や活用度が高い社会である。インターネットができる人であるなら老人から子供まで誰でも自分のしたいじょうほうをえる事ができるのだ。そんな時代になつたせいか、最近新聞や雑誌などが必要なかいながーについて話が多い。この文^ははその論争について考えてみることにする。

新聞や雑誌の特ちょうの一つが、「けいたい性」である。何まいかの紙に色んなじょうほうをつめ込み、プリントして作りあげたものなのだ。かるくて持ち出しやすいのは当然のこと。しかしインターネットはちがう。最近きじゅうの発でんでけいたい電話でもインターネットができるようになったとは言え、けいたい電話は画面がちいさい。新聞や雑誌のように一画面に大りょうのじょうほうをこうきゅうするにはまだまだおそいのだ。このことを考えるとインターネット

にかるく持ち歩けるような「けいたい性」をきたいするにはまだ早い気がする。

新聞や雑誌の特ちょうをもう一つのべてみると、それは「ほかん性」だ。もちろんインターネットでもじょうほうのほかんはできる。しかしこの「ほかん性」はそんな意味ではない。直せつ手元にあるていつでもふれる事ができる一そんな「ほかん性」を言っているのだ。特に雑誌のようなものや、本のようにそれなりの高いかちをもつこともしばしばある。中古のうりばがあつて、かちのある雑誌をもとめる人たちはその「ほかん性」をもとめているのだ。ほとんどのじょうほうをえられるインターネットにはそんな「ほかん性」はない。

きじゅうのは、てんはおくれる者を待つてくれない。実さい電子ブックとかいろいろはつ明されている。しかし「本」^ももつがちがのこっている以上、新聞や雑誌はまだ必要だと思う。